

経営体の概要

- ・所在地: 三重県伊賀市
- ・経営体名: ヤマギシズム春日農事組合法人
- ・飼養家畜: 乳用牛(成牛)430頭、肉用牛(F1)80頭
- ・従業員数: 25名(平成30年8月現在)(乳牛管理、肉牛管理、自給飼料生産、堆肥生産、場内清掃 他)

導入技術

- 搾乳ロボット アストロノートA4(LELY社製(オランダ))
搾乳作業をロボットが行うことで、搾乳作業時間が短縮でき労働力が軽減されるとともに、関連する一連の飼養管理システム(PMR給与、個体管理等々)により、多くの有用なデータが活用でき、質の高い飼養管理を実現し、乳量の増加や疾病の減少等、生産性の向上が期待される技術。
- ロボット1基で約60頭/日の搾乳が可能。



搾乳ロボット外観(代理店HP引用)



牛がロボット内へ進入



自動でティートカップを装着・搾乳

導入経緯

- ヤマギシズム春日では、需要に応じた生乳量を確保し、経営の安定を図るため増頭が必要であった。
- 搾乳ロボットを導入することで、搾乳に係る労働力を軽減し人件費を削減するとともに、乳量の増加による収益向上を目的に、畜産クラスター事業を活用して、平成27年度に牛舎の新設と搾乳ロボットを4基導入した。さらに、平成28年度に自己資金で新たに2基を導入し、現在、ロボット6基で約390頭の搾乳牛に対応している。

取組の特徴・効果

- 搾乳ロボットの導入により、1日約3回の搾乳回数になり、1日2回搾乳の従来のミルクングパーラー方式に比べて労働力の軽減、生乳生産量の増加等の効果が得られている。
 - ・搾乳作業時間の削減(延52.5時間/日→24時間/日)
 - 〔人員の削減(実5名/日→3名/日)
作業時間の削減(10.5時間/日・人→8時間/日・人)〕
 - ・生乳生産量の増加(29.7kg/日・頭→32.4kg/日・頭)
 - ・乳房炎罹患頭数の減少(19頭/月→3頭/月)
- 飼養管理体系の変更により、飼料費や施設維持費が若干増加したものの、人件費が削減でき、生乳販売収入が増加することで経営全体の収益向上に繋がった。
- 今後は、成牛頭数を500頭に増頭するとともに、搾乳ロボットを2基追加(計8基)する計画で、さらなる経営の体質強化を目指す。